一般演題

1. ^{123}I-BMIPP シンチグラフィにおける心筋摂取率の検討

百瀬　満　小林　秀樹　牧　正子
日下部きよ子　(東京女子医大・放)

^{123}I-BMIPP (BMIPP) 心筋摂取率 (MU) の意義について検討するために，肥大心を含む虚血性心疾患 21 例 (年齢 61±8.0 歳，男性 16 例，女性 5 例) を対象にプラナー正面像から BMIPP 心筋摂取率を算出し，血糖 (BS), 中性脂肪 (TG), 遊離脂肪酸値 (NEFA), 安静時 ^{201}Tl 心筋 SPECT における defect score (DS), 断層心エコー図から求めた心筋重量 (LVM) との関連を検討した．MU は BS, TG, NEFA, DS と関連は見られなかったが，LVM が高い症例ほど高値を示した ($r=0.68$, $p<0.01$). BMIPP の単位心筋あたりの摂取率 (MU/LVM) は LVM が高いほど低値であり ($r=-0.671$, $p<0.01$), 脂肪酸代謝との関連が予想されるが，この病態については今後の検討を要する．

2. 虚血性心疾患における負荷 BMIPP シンチグラムの有用性

細井　宏益　山崎　純一　山科　久代
松川星四郎　蒲野　俊雄　飯田美保子
森下　健　(東邦大・一内)

負荷 BMIPP SPECT を Tl との dual mode にて施行し，虚血性心疾患症例の心筋虚血ならびに心筋 viability 評価における有用性を検討した．対象は虚血性心疾患 17 例 (陳旧性心筋梗塞 8 例，梗塞後狭心症 2 例，安定狭心症 7 例) で，全例に運動負荷またはジピリダモール負荷を施行し，2 核種同時投与，dual mode にて撮像した．評価は視覚的に行った．Tl における再分布と BMIPP における fill in の比較では，Tl, BMIPP ともに 17 例中 10 例に再分布あるいは fill in を認めた．このうち 7 例においては，ほぼ一致した所見が得られた．欠損範囲の比較では，初期像において Tl の欠損域がより広範であったもの 4 例，BMIPP が広範であったもの 5 例，両者がほぼ同等であったもの 7 例であった．遅延像においてもそれぞれ 4 例，5 例，7 例と同様の結果が得られた．初期像，遅延像ともに所見の一致をみたものは 4 例であった．今後なお検討すべき点はあるが，負荷 BMIPP SPECT 単独で心筋虚血を評価し得る可能性が示唆された．

3. 虚血性心疾患における ^{123}I-BMIPP の評価 ——とくに壁運動との関係について——

富永　伸徳　川井　三恵　八木　秀憲
松井　隆　原　正忠
(東京慈恵医大・四内)
守谷　悦夫　森　豊　川上　憲司
(同・放)

冠動脈造影，左室造影を施行した虚血性心疾患 28 例を対象として，安静時 ^{123}I-BMIPP 心筋 SPECT 像と壁運動の関係について比較検討した．その結果，壁運動異常領域の検出率は 85.5% (47/55 領域) と高値を示した．次に，壁運動を正常群 9 例と異常群 19 例の 2 群に分け，各群における冠動脈病変の SPECT による検出率の差について検討した．壁運動正常群における有意狭窄病変の検出率は 14.3% (2/14 枝)，異常群では 57.1% (16/28 枝) であった．これらの結果より ^{123}I-BMIPP は有意狭窄病変よりも壁運動異常を反映していると考えられた．

4. ^{123}I-BMIPP による右室描出

池上　匡　斉藤　節
(横浜南共済病院・放)
川本　雅美　松原　升　(横浜市大・放)

われわれは ^{123}I-BMIPP 心筋 SPECT 像において，著明な右室描出を示した原発性肺高血圧症の一例を経験した．著しい右心系の拡張と肺動脈圧の上昇 (79/37 mmHg) を認め，BMIPP および ^{201}Tl による右室描出，^{123}I-MIBG による淡い右室描出，mottled type の肺血流シンチ像が核医学検査の結果として得られた．しかし，BMIPP による右室描出は本例に特異的な現象ではなく，続いて施行された Eisenmenger 化した VSD,

Presented by Medical*Online